

## 令和4年度(2022年度)第1回企画編集部会議事録

日 時 令和4年5月9日(月) 15:00~15:58  
場 所 北海道立道民活動センター(かでの2・7) 10階 1050会議室  
出席者 桑原真人編集長、坂下明彦副編集長、奥田仁委員、小内純子委員、  
谷本晃久委員、平野友彦委員、山崎幹根委員、横井敏郎委員  
事務局 道史編さん室(吉原、立澤、最上、和田)

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』の掲載資料・解説文について
- (2) 『北海道現代史』資料編収録要領の改訂について
- (3) 『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』解説執筆要領について
- (4) 『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』の掲載事項について
- (5) 編さんスケジュールについて

### 3 閉会

## 1 開会

### 桑原編集長

- ただいまから令和4年度第1回企画編集部会を開催します。今年度は、いよいよ、坂下副編集長と奥田委員のチームが中心となりました、『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』が出ますので、大いに期待したいと思います。それでは、本日の進め方等について、事務局から説明をお願いします。

### 吉原室長

- 説明に先立ちまして、職員の異動がありましたので、ご挨拶をさせていただきます。

### 立澤主幹

- 本年4月1日付けで主幹の杉本の後任として着任しました立澤でございます。前年度までは、北海道立総合研究機構で勤務しておりました。どうぞよろしく願いいたします。

### 吉原室長

- 本日の進め方について簡単に説明いたします。次第をご覧ください。
- 議事1は、『資料編2』解説文と資料についてです。
- 3月29日に開催予定だった企画編集部会が本日まで延期となりましたが、その間、『資料編2』の解説文について、どのような作業をしていたか、まず、事務局から説明し、その後、産業・経済部会で採用した持ち回りの校閲について、坂下部会長から簡単に説明をいただきたいと思います。
- その後、『資料編2』の解説文の変更点などについて、坂下部会長に説明いただきながら、協議していただきたいと思います。
- 続きまして、議事2で、資料編の収録要領の改訂について、議事の3では、『資料編2』の解説執筆要領について協議していただきます。
- 次に、議事の4では、資料や解説以外の掲載事項について、事務局の説明後に協議いただきたいと思います。
- 議事5では、前回の令和3年度第2回企画編集部会で説明させていただきました編さんスケジュールについて、協議いただきたいと思います。

## 2 議事

### (1)『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』の掲載資料・解説文について

#### 桑原編集長

- 議事1について、事務局から説明をお願いします。

#### 吉原室長

- 前回の令和4年3月2日の企画編集部会において、解説文の内容についてのご指摘があったところですが、事務局として、解説文をどのような手順で校閲して

いくのかという課題について道筋をつけることができなかったということが、根本的な問題だったと考えております。

- 全体的に編さん作業に遅れが出ていたため、令和3年度は、まずは掲載資料のとりまとめに追われ、掲載資料が概ね集まったところで、11月に第1回企画編集部会を開催し、12月には産業・経済部会を開催し解説文の集約に移りました。しかし、誰がどこまで解説文をチェックするのかということがあいまいなまま、日数に余裕もないため、解説文が提出される都度、五月雨式に産業・経済部会の坂下部会長に、チェックをお願いしていたというのが実状です。
- 前回の企画編集部会において、解説文についてご指摘があり、産業・経済部会の坂下部会長や奥田委員、桑原編集長と相談させていただき、道として発行していくものであることから、複数の目でチェックすることが必要との判断に至り、産業・経済部会において、委員の持ち回りで校閲をしていただくこととなりました。
- 産業・経済部会の皆様に対しましては、この場をお借りしまして、ご迷惑をおかけしましたことにお詫び申し上げますとともに、お忙しい中、校閲に取り組んでいただきましたことに感謝申し上げます。
- 2冊目以降についても、当初のスケジュールから遅れており、厳しい状況は続いておりますが、今回の反省をしっかりと踏まえ、早め早めに担当部会と相談し、校閲の体制を構築してまいりたいと考えております。

#### 桑原編集長

- 現在、皆さんのお手元にある解説文は、ただいま事務局から経過説明がありましたように、最終的には産業・経済部会において、委員が持ち回りで校閲し、修正がなされたものとなっています。
- 坂下部会長、奥田委員には、準備や采配をいただき、大変ありがとうございました。また、産業・経済部会の皆さんは年度初めの忙しいときに、協力していただきましたことを、私からも感謝いたします。
- 坂下部会長から、持ち回りの校閲をどのような形で行ったのか、簡単に結構ですから具体的に説明してください。

#### 坂下副編集長

- 校閲のポイントを私から部会に示し、それに沿って進めました。このポイントは奥田委員がまとめてくれたもので、次の刊行のときにも参考になると思いますので、内容をお知らせします。
- 基本的には、1番目は事実の誤認がないか、2番目は論旨の展開の不明確さ又は飛躍がないか、3番目は意見の対立が予想される問題での学問的見地から見て偏りのある記述がないか、4番目はその他という4つのポイントで、部会15名のうち、1章に2人ずつ割り振って、読んでいただきました。
- 4月8日にメールで部会の皆さんに校閲のお願いをして、10日後に回収し、そ

れを執筆者に戻して、執筆者は各自、校閲を元に修正し、それを事務局に送るという作業をいたしました。

- 修正がほとんどない方もいましたし、指摘を受けた方もいました。私が最初にチェックを行ったときも、特に若い委員には、長すぎるとか書式が違うとかというところでもかなり手を入れた方もいたのですけど。そういう作業をとおして、概ね同じようなスタイルになったかなと思っています。
- そんなこともありましたので、次の「資料編」の刊行においても、校閲は基本的には部会の中でやるのがいいと思っています。産業・経済部会では、外部の複数の方に校閲をお願いするというのも考えたのですが、そもそも、当部会は、経済史については北海道の研究者を根こそぎ動員しているようなものなので、他に校閲をお願いするのも難しかったということと、通史ではなく解説文であるということ踏まえ、部会の中で調整したり、お互いに校閲したりするのがいいのかなと、今回の経験で考えました。

#### **桑原編集長**

- どうもありがとうございました。奥田委員、補足はありませんか。

#### **奥田委員**

- 特にありません。

#### **桑原委員**

- ご意見、ご質問はありますか。

#### **横井委員**

- どうもありがとうございました。今説明された4点のポイントについて、もう一度おっしゃっていただけませんか。

#### **坂下副編集長**

- 後ほど送付します。

#### **桑原編集長**

- ほかにありませんか。それでは、資料1-1の解説文について見ていきたいと思います。持ち回りの校閲の結果、変更となった箇所については、事務局の方でマーカーを付けてありますので、そこを重点的に見ていきたいと思います。そのほかにも気付いたことがありましたら、何でもご意見をいただきたいと思います。
- 坂下部会長の方から、解説文や資料の主な変更点、前回、審議を見送った第9章の内容等について、簡単に説明してください。

#### **坂下副編集長**

- お手元の解説文で、色のついた箇所は事務局の方でマークしたもので、そこが、校閲により変更した点です。
- 第1章は、第1節で言い回し等の修正を行っています。
- 第2章は、第1節の(3)が若干修正されています。

- 第3章は、いくつか指摘があり、それに則して、調整したり、説明を加えたりしています。
- 第4章は、特に修正はありませんでした。
- 第5章は、資料の入れ替えがあったので、資料番号が一部変わっています。【工業（消費財）】のまとめの部分も少し書き足しています。また、章末の参考文献も多かったので、絞っていただきました。
- 第6章は、修正はありませんでした。
- 第7章は、指摘に沿って少々修正がありました。
- 第8章は、修正はありませんでした。
- 第9章は、前回の部会では、全ての解説文が揃っていなかったため、審議は今回の部会でということにしていました。
- 【金融】と【観光】は、担当委員が退任されたので、私と奥田委員が代わりに執筆をしました。資料の選定は、元の担当委員が概ね終了していたので、その資料を元に、我々が解説を執筆するということにしました。本来は、自分で集めた資料を解説するものですが、すでに集まったものについて解説を執筆することとなりました。
- 【金融】につきましては、第1節では金融制度の体制整備というかなり初期の資料があり、それから時代が飛んで、第2節では、北海道拓殖銀行の破綻とその影響という重いテーマにし、拓銀の社内誌や外部の報道記事などで構成しています。
- 【観光】については、前回の部会でもお配りした文章で、4節以外は奥田委員、4節は小川委員が執筆しています。
- 【サービス業】については、幅広い業種のすべては網羅しきれませんが、宿泊業や歓楽空間など、主に個人向けのサービス業を対象に集めた資料の中で解説しています。修正も少々ありました。
- 第10章は、かなり長かったこともあって、多めの修正となっています。
- 事実確認など、いろいろとチェックをしていただき、最終稿にいただきました。以上、簡単ですが、説明させていただきました。

#### 桑原編集長

- ただいま、産業・経済部会長から『資料編 2』の内容について説明がありましたけれども、ご意見、ご質問はありませんか。

#### 小内委員

- 解説文の第1章第2節の冒頭で、時期区分がなされていますけれども、私たちの部会でも悩ましいところなのですが、産業・経済全体を通じて、およそこの時期区分に沿っているのでしょうか。

#### 奥田委員

- 時期区分は、産業ごとにどうしても変わってきますので、これを統一的に全部

の産業に当てはめるといふわけにはいきません。ここではマクロで見たときの一定の目安であるといふふうにご理解いただければと思います。

#### 坂下副編集長

- 「通史」では時期区分は大きな問題になるので、産業・経済部会では、最初の内からこういう議論もやっていこうとしていたのですが、結局、コロナ禍で部会を開けなくなってしまいました。「資料編」の編さんにおいては、必ずしも時系列的に並べるような形で資料を掲載するものではありませんので、奥田委員が説明したような考え方で各章の編さんをしましたが、「通史」の編さん時には、議論する必要があると思います。

#### 小内委員

- 産業・経済部会の統一した見解というわけではないということですね。この章を読む上でのメルクマールみたいな感じになっているということによろしいですね。

#### 奥田委員

- そうです。

#### 桑原編集長

- ほかにございますか。

#### 谷本委員

- お疲れ様でございました。9章の坂下副編集長と奥田委員の執筆した箇所に文責の表示がないため、このままでは、その後の節の小川委員が全てを執筆したことになってしまいます。単に抜けているだけだと思いますので、このような事例は、後ほど事務局にお知らせするということによろしいでしょうか。

#### 奥田委員

- 【金融】と【観光】を担当していた委員が退任され、その段階では、すでに、資料はほぼまとまっていて、章・節の構成もほぼできていましたから、それに対する解説文を急遽執筆した訳で、引き継いだ私たちとしてはこの分野についてきちんと研究したというわけでもなく、退任した委員の意図を推し量りながら執筆したものですので、それを自分たちの業績として執筆者名を出すことについては研究者としては心苦しい心境です。

#### 谷本委員

- 第9章の解説文を読んでいきますと、第4節で小川委員の名前が出てきますので、ここまでは小川委員が執筆されたというように捉えられてしまうのではないかと思います。

#### 奥田委員

- 最終的には、桑原編集長と坂下部会長とのご相談になるかと思いますが、これは、誰かが代わりに、今までの蓄積を生かして何とかまとめなければならないと

いう必要性に迫られたという経緯があるということです。

#### 谷本委員

- 分かりました。そうすると、小川委員は第9章では第4節のみを執筆したということができるように、うまくマークをする必要があるかなと感じました。

#### 奥田委員

- ありがとうございます。

#### 桑原編集長

- ただいまのご質問の件は、後ほど坂下部長、奥田委員と相談の上、適切な方法を考えて決めたいと思います。よろしいでしょうか。

#### 谷本委員

- 結構でございます。

#### 桑原編集長

- ほかにご意見、ご質問はありませんか。なければ、本日の審議をもちまして、『資料編2』の解説と掲載資料を、道史編さん委員会へ提案したいと思いますので、よろしく願いいたします。

### (2) 『北海道現代史』資料編収録要領の改訂について 及び

### (3) 『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』解説執筆要領について

#### 桑原編集長

- 議事(2)と議事(3)について、事務局からまとめて説明をお願いします。

#### 吉原室長

- 議事(2)の「資料編収録要領」につきましては、資料2-1が新旧対照表、2-2が改正案となっております。この要領につきましては、令和2年度に企画編集部会において決定したのですが、『資料編2』について審議を進める中で、記載事項やレイアウトが変更されたことから、実状に合わせて修正するとともに、文言整理も行うものです。
- 議事(3)の『資料編2』の「解説執筆要領」につきましては、本来であれば、これを決定した後に解説文の執筆に入るべきなのですが、準備が追いつかず、産業・経済部会の皆様には、解説文の執筆に最低限必要な事項をお知らせして執筆していただきました。今回改めて、産業・経済編の解説の執筆要領として整理したいと思います。
- では、議事(2)の「資料編収録要領」について、資料2-1の新旧対照表で説明させていただきます。今回変更する箇所には下線を引いております。
- 1ページ、2(2)は、解説の項目を独立させたものです。(3)から2ページの(8)までは、資料の末尾に置いていた出典を冒頭への配置に変えたり、出典に

は刊行年を付けることにしたりした、これまでに審議してきた結果を反映した内容となっております。ほかにも若干、文言整理をしています。3ページの1行目のアと、同じ並びのオは、文言整理です。

(4)は、補記するときの括弧の使用方法についてです。当初は〔 〕を使うこととしていたのですが、実際に筆耕したところ読みにくいので、角括弧と丸括弧の中間の〔 〕を使うようにしたので、それに合わせた修正です。文言整理もしています。(5)も文言整理です。4ページに移りまして、イは、同じく、括弧の形の変更に伴う修正です。(6)のアは文言整理、イは、文章中の図を省略する事例が多かったので、それへの対応方法を書き加えたものです。4では、(1)と(2)は括弧の形の変更に伴う変更、(4)は文言整理です。

- 次に、議事(3)の「解説執筆要領」についてですが、資料3をご覧ください。
- ここに記載した事項は、昨年12月の産業・経済部会で執筆に際し確認した事項が中心となっています。
- 1が趣旨、2が形式で、3が文章の書き方の様式を整理するなどしています。ただし、3(5)の文献に関しては、2行目に「著編者名、書名、刊行年の順で表記する」と記載していますが、この点につきましては、12月の産業・経済部会での確認事項と異なります。12月の時点では、刊行年は記載しないことを確認しました。しかし、実際に提出された解説文では、刊行年を記載した委員が大変多かったです。また、資料の出典の記載方法についても、刊行年を付けることとしたところですので、解説文における参考文献についても、同様に、刊行年を付けるということにしたいと思います。

また、3(6)により、この要領に例示する以外の表記については、「資料収録要領」に準じることとします。例えば、常用漢字を使用するといったことは、この項で適用できると思います。

『資料編2(産業・経済)』の「解説執筆要領」についてはこのようにしていきたいと考えております。

- 議事(2)と(3)につきましては、この場でご意見、ご質問をいただき、修正すべき点は修正し、本日付けの決定としていただければありがたいと考えております。

#### 桑原編集長

- ただいまの議事(2)と(3)につきまして、ご意見、ご質問はございませんか。

#### 坂下副編集長

- 資料3の「表記」は2ではなく3ではありませんか。

#### 吉原室長

- 3の誤りでした。訂正します。

## 桑原編集長

- 本来であれば、執筆要領などは原稿をお願いする前に決めておくものですが、今後、事務局で提出された原稿を整理する際の基準としても必要なので、整備していきたいということです。ほかにご意見、ご質問がなければ、これで決定したいと思います。

## (4)『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』の掲載事項について

### 桑原編集長

- 次に、議事4の『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』の掲載事項について、事務局から説明をお願いします。

### 吉原室長

- 資料4-1をご覧ください。
- 資料と解説文以外の掲載事項については、表に挙げたようなものがあります。
- 資料4-2は、『千葉県の歴史』(以下、『千葉県史』)の初刊として発行されたものの関係部分です。こちらも参照していただければと思います。
- 標題紙は、『千葉県史』では1ページ目になります。こちらのデザインについては、表紙の色などとともに、印刷の発注までに道において検討したいと考えております。
- 2の「口絵」は、『千葉県史』では2～3ページに、割愛して掲載しております。産業・経済編の口絵については、この後説明させていただきます。
- 3の「序」については、『千葉県史』では4～5ページになりますが、標題紙と同じく、印刷の発注までに道において検討したいと思います。
- 4の「はじめに」については、『千葉県史』では5～6ページになります。これについては、今回が『北海道現代史』の初刊にあたるので、どのような考え方で編さんしたのか、例えば、収集した資料の提示を重視していることなどは、昨今の自治体史を読み慣れた方でなければわかりにくいと思いますので、そういったことを初刊で分かりやすく説明しておく必要があると考えております。これは、編集長に執筆をお願いしたいと思います。
- 5の「凡例」は、『千葉県史』では8～10ページにあたります。『資料編2』では、資料4-3のようなイメージで考えており、先ほど、議事の(2)と(3)で承認いただきました「資料収録要領」と「解説執筆要領」を踏まえ、また、『千葉県史』と『山口県史』も参考にして作成したのですが、親会までに、編集長・副編集長にチェックしていただき、最終原稿にしていきたいと考えております。
- 6の「目次」と「資料目次」については、『千葉県史』では6ページが「本書の構成」、10～12ページが「資料目次」、12ページから14ページまでが「細目次」と書かれていますが、『資料編2』では、千葉県史の6ページと10～12ページを

まとめて「目次」、同じく 12 ページから 14 ページまでを資料目次として整理したいと考えております。

- 次に、8 の「あとがき」は、『千葉県史』では 15～16 ページになります。ここでは、実際に編さんにあたった産業・経済部会の坂下部会長に書いていただければありがたいと思います。
- 8 と 9 の間に「(執筆分担)」と記載しておりますが、他県史を見ますと、執筆者は解説文の文末に表記し、執筆分担は掲載しない例が多いです。『資料編 2』でも、解説文の末尾に著者表示を置くということになっておりましたが、先ほど解説文の文責が抜けているとのご指摘があり、桑原編集長、坂下部会長、奥田委員で相談されるということでしたので、この項の扱いについては、編集長と副編集長にご一任いただき、進めさせていただければありがたいと考えております。
- 9 の資料提供機関・協力者一覧は、『千葉県史』では、16 ページにあたります。今回、掲載した資料の所蔵機関、掲載許諾をしてくださった機関や個人などを掲載したいと考えております。
- 10 は、編さん関係者名簿で、千葉県史では、17～19 ページに当たります。初刊なので、刊行時点の関係者は 17～18 ページに、旧関係者は 18 ページから終わりまでとなっています。道史も同じような構成にしたいと考えております。
- サンプルとしてお示しできたのが「凡例」だけで申し訳ありませんが、親会までには整えていきたいと考えておりますので、よろしく願います。

#### 立澤主幹

- 次に、口絵についてですが、産業・経済部会の皆様にも選んでいただきながら、概ね 1 章 1 枚程度、第 9 章など複数の項目に分かれている章は各項目 1 枚程度になるようなイメージで選定作業を進めています。
- 今のところ、候補として挙げたものにつきましては、資料 4-4 で、カラーで示していますが、例えば、水産業であれば出漁の様子や水揚げ風景、交通の分野であれば昔の飛行機、列車内のだるまストーブ、路線バスといったもの、鉱業では、炭鉱労務者募集のポスター、労働では、組合の大会やストライキの様子といったものです。
- 口絵は 8 ページを予定しており、事務局においても調整を進めた上で、編集長と副編集長に最終確認をしていただき、親会までには最終原稿にしたいと考えております。

#### 桑原編集長

- ただいま、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問はありませんか。
- 特になければ、今後は事務局の説明したように進めることといたします。

#### (5) 編さんスケジュールについて

#### 桑原編集長

- 議事（5）について、事務局から説明をお願いします。

#### 吉原室長

- 資料5をご覧ください。
- 3月2日に開催した企画編集部会で説明したもので、今回は説明に留まっておりました。改めて、要点を説明させていただきます。
- まず、年表について、『北海道現代史』の通史編や『北海道クロニクル』の内容を踏まえ、例えばいつの時代から書き起こすのかといったことも含めて、検討が必要であるため、編さん計画のとおり最終年度とし、ウェブでの暫定版の発行は行ないということで進めていきたいと考えております。
- 次に『通史編』の1と2ですが、『資料編2』の審議や印刷の目処がつかえましたら、私どもで他県史を参考にたたき台を用意しますので、企画編集部会で『通史編』の体制等についての検討に入っていただきたいと考えております。
- 『北海道クロニクル』については、概説部会が担当し、前近代小部会と近現代小部会で構成しますが、現在のメンバーがフルメンバーではなく、政治・行政、産業・経済、社会・教育・文化の各部会から、1名又は何名かが近現代小部会に合流し、概説部会のメンバーが完成することになります。
- まずは、どういう体制でメンバーの合流に取り組んでいくかということを企画編集部会で検討し、次に、メンバーが固まった概説部会において叙述の内容や構成等の具体を検討していく必要があります。
- こういった流れの中で、年表の方向性も検討していくこととなると考えております。
- 今年度、資料編として2冊目となる『資料編3（社会・教育・文化）』の審議が始まりますし、通史や概説について検討を開始するので、その進捗によって変更が生じることもあると思いますが、現時点では、このようなスケジュール感で進めていきたいと考えております。以上です。

#### 桑原編集長

- 議事（5）について、事務局から説明がありました。まず、年表につきましては、編さん計画通りに最終年度発行とする必要があるということです。あわせて、今後、通史編の体制づくりなども検討していく必要があるということでした。ご質問やご意見ございませんか。

#### 坂下副編集長

- 以前にもお願いしたのですが、産業・経済部会では、資料編の作業が大体終わりましたので、できれば、今の熱意を保持し、連続的に作業できるような形にさせていただきたいため、ボリュームなどの大きな枠組みをなるべく早くつくっていただければと思いますので、よろしくお願いします。

#### 桑原編集長

- どうもありがとうございます。ほかにございませんか。なければ、このような形で進めていきたいと思ひます。
- 今年度は、事務局から説明があつたとおり、いろいろと取り組んでいく必要があひますので、よろしくお願ひします。
- 予定した議事は以上ですが、全体を通してご質問やご意見はございませんか。なければ、本日はこれで終了します、皆さん、どうもあひがとうございまして。

**吉原室長**

- 皆様お忙しいところあひがとうございまして。今後、『資料編2』の作業を進め、次の企画編集部会の準備も進めていきたいと考へておひますので、引き続きよろしくお願ひします。本日はどうもあひがとうございまして。